

(単元)四分位数と箱ひげ図

(本時のねらい)

データの散らばり具合を表す数値として、四分位偏差と標準偏差を考えるが、本時はまず四分位偏差を扱う。その準備として四分位数の概念を理解できるようにする。

(ICT活用方法)

従来は黒板に書いて前時の授業の内容を復習していたが、結果を電子黒板で表示する。短時間で復習ができる。語句の説明を電子黒板に表示することで板書の時間が省略でき、生徒が問題を解く時間を多くとることができ、机間巡視の時間も多くとれる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 代表値だけでは捉えられないデータの特徴を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 散らばり具合を見ることが必要であることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板で表計算ソフトの画面を利用し、代表値を確認させる。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> 語句の説明をプリントに記入しながら聞く。 箱ひげ図の書き方の説明を聞き箱ひげ図を書く。 一人一台端末の表計算ソフトを利用して箱ひげ図を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句を説明する。 箱ひげ図の説明をする。 教育クラウドプラットフォームでデータを送り箱ひげ図を表示する説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントと同じものを電子黒板に提示して説明しながら書き込んでいく。 一人一台端末を使い箱ひげ図をつくる。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> まとめをきく。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を電子黒板に提示する。

204 数_数学 I _5_301 一斉_四分位数と箱ひげ図

(授業の様子)



生徒と同じ教科書やプリントを電子黒板に写す



表計算ソフトを使って解いてみる

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

箱ひげ図の書き方を忘れないうちにといい、1時間の中に表計算ソフトを使って箱ひげ図を描いてみたが、内容的に多かったようで、もう少し手書きに慣れてから表計算ソフトに移ればよかったと思う。また、教科書の箱ひげ図は横型だが表計算ソフトは縦型なのであまりピンと来ていなかったようである。四分位数等を表計算ソフトのグラフから読み取ったり補助線を足してみたりグラフに親しむ時間がもっとあれば生徒の反応もよかったかもしれない。今回は時間不足であまりいろんなことができなかつたのが残念である。